

昭和五十年十二月招集

第四回館山市議定会定例会會議録第三号

館山市議會





目次	頁
日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	一
開議	二
発言の取り消し・訂正	二
議案第六十七号	二
議案第六十八号	三
議案第六十九号	三
議案第七十号	一八
閉会	二四
本日の会議に付した事件	二四

一、昭和五十年十二月十九日（金曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 三十名

一 番	吉田 勇治郎	二 番	伊藤 幸太郎
三 番	矢野 寿夫	四 番	押元 稔
五 番	黒川 平治	六 番	鈴木 正義
七 番	本間 昭二	八 番	松下 正己
九 番	鈴木 稔	〇 番	流山 源次郎
一 番	近藤 好雄	一 番	栗原 一雄
二 番	林 豊	二 番	石井 輝久
三 番	辻田 実	三 番	安西 益男
四 番	石井 武敏	四 番	渡辺 軍治郎
五 番	渡辺 昭夫	五 番	和田 一郎
六 番	田中 禄郎	六 番	五十嵐 昇
七 番	菊井 敏博	七 番	西村 真次
八 番	伊賀 多朗	八 番	藤田 益治
九 番	遠山 ヨネ子	九 番	石井 正康
一〇 番	望月 照正	一〇 番	山口 康

一、欠席議員 なし

一、出席説明員

一、出席事務局職員

一、議事日程（第三号）

一、館山市役所議場

昭和五十年十二月十九日午前十時開議



日程第一 議案第六十七号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

日程第二 議案第六十八号 館山市教育委員会委員の任命について

日程第三 議案第六十九号 昭和五十年年度館山市一般会計補正予算(第四号)

日程第四 議案第七十号 昭和五十年年度館山市水道事業特別会計補正予算(第三号)

### 開 議 午前十時五十三分開議

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数三十名、これより第四回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

### 発言の取り消し・訂正

○議長(吉田勇治郎君) この際おはかりいたします。

辻田 実君から昨日の質問中、一中の件について勘違いの発言がありましたので、その部分を取り消したい旨の申し出がありました。この取り消し申し出を許可することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって辻田 実君からの発言の取り消し申し出を許可することに決しました。

重ねておはかりいたします。

渡辺軍治郎君から昨日の質問中、房総開発を開発公社に訂正いたしたい旨申し出がありました。この訂正申し出を許可すること

に御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって渡辺軍治郎君からの訂正申し出を許可することに決しました。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。この際申し上げます。本日の議事案件の内容説明はすべて終わりますので、直ちに質疑より行ないます。

### 議 案 の 上 程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一、議案第六十七号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第六十七号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

○議長(吉田勇治郎君) 御質疑願います。御質疑ございませんか。御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長(吉田勇治郎君) おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して、直ちに採決すること

に御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

### 採 決



○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

### 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第六十八号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

議案第六十八号 館山市教育委員会委員の任命について

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。御質疑ございませんか。  
― 御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して、直ちに採決すること  
に御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

### 採決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原

案どおり可決されました。

### 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第六十九号昭和五十年  
一般会計補正予算を議題といたします。

議案第六十九号 昭和五十年館山市一般会計補正予算（第四

号）

### 質疑応答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。

○二三番（菊井敏博君） 六ページの仲宿青年館工事請負費四百万  
についてお聞きいたします。

この仲宿青年館四百万円について、五ページに寄付金として四  
百万円の受け入れがありますが、これの関連と、青年館をいまま  
でどのようにしてつくってきたかということをお聞きいたします。  
○福祉事務所長（山口 一君） 今般お願いいたしました仲宿青年  
館の建設の件でございますが、従来青年館につきましては県の事  
業といたしまして、地元要望による青年館設置の場合県の補助を  
八十五万、市の補助を八十五万、残額を地元負担というような形  
で設置をしてまいりましたわけでございます。

今回仲宿区におきまして青年館設置の要望がございましたが、  
県のほうの補助対象として現在県のほうで認めていただけないと  
いうようなこと、それから市自体も県の補助がございませんので  
市自体でも補助することができませんので、お断わり申し上げた  
わけでございますが、仲宿区のほうよりたつての要望がございま



して、全額地元で負担するから是非建設してもらいたいというようなお話がございましたので、御趣旨非常にけっこうなことというところで今回建設をお願いしたわけでございます。

〇二三番(菊井敏博君)　　ということは、これから青年館に対する補助というものは、県はこれから永久的に出ささないのか、その点の福祉事務所長(山口　一君)　　県の意向といたしましては、本年度は補助は無理だということで、来年度はやはり建設事業は推進するそうでございます。

仲宿区につきましても、来年度建設することになれば県の補助はいただけるということで地元の方とお話ししたわけでございますが、地元としてはどうしても本年度中に建設してほしいということでございますので、このような措置をお願いしたわけでございます。

〇二三番(菊井敏博君)　　もう一点、県の補助が出なければ市からの補助は出せないということは、何か関連があるんですか。

それと同時に、このような形を、仲宿青年館をつくるのに全額出したというような形のもが出た場合に、青年館のバランスというのはおかしくなるんじゃないかと思うんですが、そのへんの考え方はどうですか。

来年なら来年、やれるんなら来年まで延ばさして、また何か方法をもって、来年の補助をつけてやるというよりな、少しあれになりますけれども、そういうことはとれないんですか。同じ青年館でも片っぼは全部出した、片っぼは補助を出してもらっているということは納得できないんですが、その点について。

〇福祉事務所長(山口　一君)　　市自体の補助金につきましては、

青年館建設の關係につきましては県の青年館建設補助要綱に基づきまして、県の補助とそこに同額の補助を上乗せして建設するというたてまえになっておりますので、その關係から市自体の補助というものは今回はできなかったということでございます。

なお、今回は確かにお話のとおり、建設につきましては若干変則的なところはございますけれども、一応事務レベルの考えといましては、本件を前例としないで今後はケースバイケースで検討してまいりたい、このように考えております。

〇二三番(菊井敏博君)　　市長さんにお聞きいたします。

県の補助がなければ市が出さないということは関連してわかるんですが、それでは地元の人がかわいそうな気がするんですよ。市が独自でその分補助してやるような考えはとれないか。ほかのものは全部補助がついていて、この問題について補助がない、地元ではおれのところは自分でつくったんだというようになことだと、ほかの青年館と活動のいろいろな形もありましょし、同じ青年館でも一つ格の違った青年館ができるということは行政上納得できないんですが、その点どういふうにお考えになりますしうか。

〇市長(半沢良一君)　　確かに御指摘のように少し変則的にはなっておりますけれども、そういうことでただいま福祉事務所長から御答弁申し上げましたように、県の補助も来年度になればそういう可能性もありますので、来年度建設したらどうかということをお願いしたんですが、何ぶんにも地元の要望が非常に強くて、ぜひ自分のほうで全額もつから建ててもらいたいという要望が強かったものですから、青年館建設それ自体はたいへんけっこうなこととでございますので、その要望をお聞きしたというよりな形でこ



ございます。

〇二三番（菊井敏博君）　ですから地元のそういう熱意があるわけです。全面的に市はこのような状態だから、市も苦しいでしょう。だから私も全部建てましょう。私その部落はどういう部落か知りませんが、非常に金のある部落ですからそういう形でできたかも知れませんけれども、そういうものが例になりますと、市のほうでも今後苦しいんだし、こういう形のもので変則になっちゃうわけですよ。そういう気持ちで住民の気持ちをそのまますなおに受け取っちゃうのはいいんですけど、やはりいままて全部市から出ているんです。それに対してこの分だけ出さないということは市の行政上思わしくないんで、市の分だけ出してやるというようなほかの考え方から市で出してやれないものなんですか。出せるか出せないか。

〇市長（半沢良一君）　現在の財政状況では出せませんので、来年度まで待っていただきたいとお願ひしたんですが、地元の要望が非常に強いので、従来のあれからみると変則的になりますけれどもお認めしたわけでございます。

ただいま福祉事務所長が答弁いたしましたように、これを前例とはしないというような考え方で、今後はケースバイケースで考えていきたいと思っております。

〇二六番（藤田益治君）　ただいま二三番議員に関連して、建物のほうは御説明でよくわかりましたが、おそらく建設する土地が国有地だと思うんですが、そのへんのいきさつはどのように御配慮いただいたか。

〇福祉事務所長（山口　一君）　お話のとおり建設予定地は国有地

でございます。この国有地の借用につきましては、民間には貸し出しをしないということで、市のほうで公共施設を建設する場合には貸すというような財務局のお話でございますので、そのような措置を講じたわけでございます。

〇二六番（藤田益治君）　そのお借りすることになるんですが、賃貸料というんですか、そのへんの形は市の場合は賃貸料を払うのか。また地元との関係はどのような措置をしてあるのかどうか。

〇福祉事務所長（山口　一君）　まだ正式に賃貸契約を関財局のほうと結んでございませんし、賃貸料につきましても具体的な話し合いはまだ進めてございません。したがってどのくらいの額になるかちょっと現在のところ不明でございます。

賃貸料が出た場合には、地元のほうで負担していただくという約束になっております。

〇二六番（藤田益治君）　おおむねわかったんですが、これは将来のあることでありますので、そのへんの地元で永続的に負担する。また一般の青年館等々の関係で、おそらく建物に対する火災保険とかいろいろなものがありますが、一般の青年館とは同じような方法で将来扱うことが不可能か可能か、そのへんのいきさつについて。

〇福祉事務所長（山口　一君）　一応青年館を建設する場合のたてまえといたしまして、運営、管理といたしましては一切地元へ委託するという形になっております。したがっていまお話の地代につきましても、地元で負担していただくのが原則になろうかと思っております。

それから火災保険につきましては、半額だけ市のほうで補助申



し上げております。

○一八番（渡辺軍治郎君） いまの問題にも関連しますけれども、青年館の管理は館山の市長になっていきますが、結局管理というところとは維持、管理をしていくわけですから、それに基づく経費は市が負担するのが当然じゃないかと思いますが、そのへんをどうお考えになっていますか。

○福祉事務所長（山口 一君） 御指摘のとおりでございますけれども、一応青年館を建設するときの、もちろんこれは地元の要望に基づきまして青年館を建設するという形になっておりますので、その際の約束ごととして運営、管理については地元で負担していただくということになっております。

○一八番（渡辺軍治郎君） この問題は、青年館というのは県の政策でもってやられているわけです。そのために県から金も出るし市も出すと、地元で負担金をとるというのは反対なんで、強制的な寄付になるんで前からそういうふうに考えておったわけでございます。一応管理者が市長になっている以上、維持管理は市が管理するのがたてまえだと、そういうふうに考えますので、このへんはひとつ検討してもらいたいと思います。

次の説明の中でよくわからなかったんですが、六ページの老人福祉総務費の中で負担金ねたきり老人の介護手当減額補正が三百二十七万三千円計上されておりますが、説明では国の福祉手当が変わったからということで、内容があまりはつきりしてませんでしたので、なぜこういう減額が出たのかも一回ひとつ説明願います。

もう一つは、七ページの農業近代化資金、これはやはり負担金

のあれですが、この中で農業近代化施設補助金として千四百万四千円計上されておりますが、これはほ場整備の進行に伴う東部中央地区ですか、これの大型機械を購入するというところで、これだけの金が県の補助金を得て計上されていると思うんですが、維持管理は一体どこがどういうふうにしてやるのか、そのへんひとつお聞きしたいと思います。

○農産課長（岩崎一郎君） お答えいたします。

農業近代化施設補助金千四百万四千円の内容でございますけれども、事業といたしましては機械の購入でございます。購入そのものは協業施設でございますので協業団体の所有になりまして、この協業組合の維持、管理、運営ということになるわけでございます。

以上でございます。

○福祉事務所長（山口 一君） ねたきり老人等介護手当の減額の件でございますが、これにつきましては従来市単事業といたしましてねたきり老人等に対しまして月額三千円の介護手当を支給しておったんですが、本年十月一日から特別児童扶養手当法が改正になりました、重度障害者に対します福祉手当制度ができたわけでございます。そうしまして従来やっておりましたねたきり老人等介護手当と福祉手当が同じ対象者になっておるわけでございますので、こちらのほうに移行したということでございます。したがって、ねたきり老人等介護手当は九月までの支給分を差し引きました予算残額を一応減額したということで、同じ六ページの上のほうにございます重度障害者福祉手当のほうに移行したということでございます。



なお、移行した際重度障害者福祉手当に該当しない方が、こちらのほうには所得制限、併給制限等がございますので、該当されない方が出てまいりますので、その方につきましては一番下にございます重度障害者等福祉手当という、これは市単事業でございますが、それによってお救いする、このような形になっております。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 福祉手当の問題はそれでいいと思うんですが。

協業組合では大型機械を買ったのを管理する、これは農業が現場整備が進んで大型機械を入れなければならない、そういう状況になってきているんですが、そういう点について協業組合で維持管理をしていくということですが、一つの機械のセンターのような形になると思うんですが、基盤整備が進んだというところでは当然大型機械の購入とかということで、何らかの援助をしなければ農家の負担ではとてもじゃないけれどもやっていけないという実情であると思うんです。

維持管理をしていく場合、市として補助対策といえますか、そういうことを援助するようなそういうことがあっていいのではありませんか。私たちは政策として機械の貸し出しセンターとか、そういうものは市と農協がタイアップしてやっていくのが当然だというふうに考えていたんですが、そのへんの市の姿勢を、どういうふうに考えているのか、これはひとつ市長さんに聞きたいと思うんですが。

〇市長（半沢良一君） 私は原則的にすべてそうでございますけれども、農業に限らず商業でも水産業でも業者が自主的に主体的に

自分たちの企業の改善、改良、あるいは発展を考えるべきだというふうに考えているわけでございまして、そういう意味で農業の近代化のためのこれだけの補助金をもって機械を導入するわけでございますから、これは当然業者自体が負担すべきもんだと考えておりますけれども、もし今後運営上いろいろ支障が出るようでしたら、その時点で考えておきたいと思えます。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 当然業者が、農業として使おうべきものですから業者が負担すべきということは考え方としてはあると思うんですが、業者が負担すべしと、市長は施政方針の中で産業の開発、そういうものを重点としていっているわけです。したがっていま基盤整備が進んで農業の近代化がどんどん進んでいくという点で、ただ業者がかせにしておいてよいものかどうか。市優が政策として産業の発展というのを掲げている以上、産業を発展させるために市が何らかの助成をする必要があるんじゃないか。特にいまの農業は機械化が進んで、その機械化の負担が相当農業経営を圧迫していると思うんですが、これはおそらく維持管理がたいへんだと思うんですが、大型の機械を入れるわけですから、それに対して農家の負担をできるだけ軽減して産業を発展させるという立場に立てば、市が何らかの補助をするのが政策的にみて当然だと思うんです。そういう点で市長さあの方の考え方は、何か業者がかせで業者に全部負担させるという、市長の政策と矛盾するんじゃないか、そういうふうに考えますが、市長さんはそのようにはお考えにならないですか。

〇市長（半沢良一君） 機械を導入して農業を近代化することによって生産性が上がるわけでございますから、それによって農家の



経営内容がよくなるわけでございますので、よくなることによつて機械を導入することによつて生ずる負担も吸収できるものだ、また吸収できるように運営すべきものだといふふうに考えておりますが、現実によつてみなければわからないことでございますので、補助金を必要とするような事態がございましたら、その時点で考えてみたいと思います。

○一八番（渡辺軍治郎君） 市長さんの言うようにこれから先事業の狀態をみて、近代化すればそれだけに大きな投資をするわけですから、かなり負担になると思うんですが、先行きそういうような実情の上に立つて考えてもらいたいということで質問を終わりにいたします。

○二一番（田中祿郎君） セブページでございますが、自然休養村管理センター補助金千五百三十万ということになっておりますが、管理センターというのはどこにできるんですか、これをひとつ御説明願いたいと思います。

○農産課長（岩崎一郎君） 現在の農業協同組合神戸支店、あの支店のわきにできることになっております。

○二一番（田中祿郎君） よく自然休養村ということを言われますが、現在まで自然休養村というものの、何て言いますか状態ですか、これをひとつお話しただきたいと思ひます。

○農産課長（岩崎一郎君） 自然休養村対策事業として現在まですでに完成しておるもの、事業の済んだものでございますが、これはは場整備事業が布沼、上郷。現在計画しておりますのが坂井、小沼。布沼、上郷におきましてはこれは同時に施行したわけでございますので十一・八ヘクタールでございます。それと一部上郷

地区の暗渠排水、こういったものを合わせて現在施行を目前に控えておりますけれども、坂井、小沼、これらを合わせますと七千五百四十二万三千円の事業になるわけでございます。これは四十八年度と四十九年度で実施されたものが四千四百万円ほどでございます。今回お願いいたします。当初予算でお願いし、さらに補正をお願いいたしました坂井、小沼が実施されるわけでございますが、これが二千八百二十四万ほどに相なっております。合わせまして七千三百四十二万三千円ということに相なるわけでございます。これはは場整備でございます。

それから経営近代化事業、これは合計いたしますと三千三百五十一万円ほどに相なります。内訳といたしましては、佐野の部落の中に温室を三棟、千九百八十五平米、これは四十七年度で完成しております。それからもう一つは布沼園芸組合によりますかん水事業、約四町歩にわたりますしてジャコを付けまして各ほ場一まいごとにかん水する、これは冬季間花の栽培のための施設でございます。この施設が六百四十九万三千円でございます。それから今回お願いいたします坂井、小沼地区の共同施行によりますかん水事業、これが百三十六万円でございます。合計いたしまして三千三百五十一万七千円ほどに相なります。

最後のもう一つは休養村管理センター、こういうことになるわけでございます。これが事業費が三千六十万という予定でございます。間もなく着工認定次第着工いたしたいということでございます。

三種類の分類にわたります事業を総計いたしますと、総額で一億三千七百五十万円、このような総事業費になるわけでございます。



す。

各年度ごとに今日までこうした事業を施行してきましたが、また本年度、最終年度としてこれから事業を予定するものでございますが、年度区分といたしましては、第一年度が二千五百六十六万円施行しております。それから第二年度が四十八年度でございます。四十八年度では三千七百八十六万円ほど施行しております。第三年度の四十九年度におきまして総事業費千三百八十一万円ほど施行しております。最終年度の五十年年度におきまして総額で六千二十万ほどに相なるわけでございます。

このようにして自然休養村対策事業を完了をいたしたい、こういう経過になっております。以上でございます。

〇二一番(田中祿郎君) 自然休養村の施行でございますが、これは神戸、西岬が主にやっております。ここは自然休養村の指定地であるということでございますが、たいへん多額な金で、いろんなかん水施設とか、水道のうえ込みとかやったんですが、これが神戸西岬の方々がおそらく補助金というものが県、国からも出ていると思いますが、何か自然休養村といいますと私は保養地みたいにいままで実は考えておったんですが、気候があつたかだし、花もとれる、野菜もとれるということで大きな保養地をつくるんだというふうに私は考えておったんですが、いまのお話ではほとんど農業の機構の改革ですね、農業に対してこれをやっている、というふうなふうに解釈してよろしゅうございますか。

おそらく自然休養村の管理センターができますと管理者ができると思うんですよ。現在では管理者というものが各地区からの代表が出てまゐっておるんですか、どういふふうな運営の方法でや

っていらっしゃるんですか、お伺いしたいと思います。

〇農産課長(岩崎一郎君) お答えいたします。

確かに自然休養村の趣旨は、目的からいいますと農業専用施設のような事業内容になっておりますけれども、やはり私どもは都市の生活者、都会の人々に対する緑と土、こういったものを提供し、なおかつそれが観光要素になるならばむしろそれを強化して、そのような農業施設を充実しながら、片っぱの都市生活者に対するいいと休養の場としようではないか、というような趣旨で発足したわけでございますけれども、ワクそのものが農業サイドのワクでございまして観光一本やりというわけにもまいりません。一部花つみ園という構想もございましたが、やはり農家の所得を上げていくということが観光と両々相まって農業の施設を充実していくんだ、私どもはやはり農家の所得を少しでも上げていこう、そして近代化につないでいこう、こういうことでございまして、やはりそれには一番遅れているほ場整備、かんがい用水、かん水事業、こういった内容が伴なってくると思います。それと温室の観葉植物等、これは観光ということを主体としたものでございますけれども、そういうことで所得を上げていこうという目的で事業の内容が施行されたわけでございます。

最後の休養村管理センターでございますが、これはあくまでも農業協同組合の施設でございまして、農業協同組合で維持管理をするためになつております。いろんな産物、あるいは土と緑、こういった特徴のあるおみやげこういった物をやはり生産者の中から求めまして、それらを展示販売するというようなことにあたるのが農業協同組合でございます。そのような性格のもとに管理



センターの計画が進められておるわけでございます。

〇二一番（田中祿郎君）　そうしますと、農業協同組合ということになりますと、館山市の農業協同組合というものが管理すると、

農業センターをつくりましても、センターの所長というのは農業会長がやるんだというふうなことになるんじゃないかと思いますが役員を私がどうこうということじゃございませんが、趣旨からいさましてこれは農業の構造の改善をやつて、団地のほうからそういうものをとつて、農家のほうに福音を与えるということが一つと、東京あたりから要するに気候のいいところへ遊びに来る、休養村に入つてみて安いものを買つていく、保養していく、花をつんでいくという趣旨だろうと思いますが、これは農業協同組合でもって管理、いままも農業協同組合に移管してあるんですか。

市から補助が出てゐるのに、これを農業協同組合に千五百三十万ですか、こういう多額の金をやつて市は関係がない、ただ補助金を出せばいいんだ、また指導をしていくのも農業協同組合だと思ふんです。市に農産課があるのにこれを農業協同組合ばかりにまかせるというのはどうかと思いますが、これはやはり市でも、手引きをするし、いろんなほ場をやる、補助金だけ出せば俺のほうは知らないんだという気持ちを持つてはかなわないと思ふんです。

その点が、現在までやつておることが、四十七年度から始めたわけでございますが、五十年で大体終りになったといいますが、いままも農業会へ委託させてやつておるわけなんですか。要するに農業協同組合の組合員がやつていますから農協でも私はいいと思ふんですけれども、現在までだれが管理していたかということを開

きたい。補助金が多く出ていますが、休養村組合というものがきておるのか、また農業協同組合でもってこれを管理して、指導してやらしておるのか、そのところを聞きたいわけでございます。

〇農産課長（岩崎一郎君）　現在まで施行いたしました事業の内容、それぞれの管理運営があるだろうと思ひます。これはそれぞれの該当いたします部落、組合、そういった施設の事業に対する補助で、それぞれの関係部落で維持、管理、運営にあたつてゐるわけでございます。

管理センターの場合でございますが、これはやはり神戸地区のそれぞれの生産団体、いろんな団体がございまして、これらの総意に基づいてこういったものを設置しようじゃないか、これはあくまでもこれらの共同体である農業協同組合が一応音頭をとつて管理運営、名目上の管理運営でございますけれども、農協の財産として設置して、今後運営にあたりまして神戸部落の内部で検討しながら実際の運営にあたつていきたい。

このようなことで自然休養村管理センターにつきましては、県といふんな打ち合わせ、指導内容、こういったものが固まりまして、今回このように予算をお願いするという段取りになったわけでございます。具体的なこまかな内容は今後それぞれ部落の関係団体とも協議いたしましてきめていく方向になるだろうというふうに私どもも期待してゐるわけでございます。

〇二一番（田中祿郎君）　たいへんよくわかりました。わかりました。が課長さんにひとこと伺ひするんですが、いままで休養村の事業をやつておる団体が幾つございますか。かんきつ類もござい



ましようし、花のあれもございましょうし、果樹のほうもあるだろうし、観葉植物もあるでしょう、仕分けですね、種類、幾つの団体がございましょうか、お答え願います。

○農産課長（岩崎一郎君） お答えいたします。

いままでのところ七つほどございます。中に同じ部落でありまして、ほ場関係と園芸関係と、やはり同じ部落の中で組織が二つある、こういうところもございます。やはり役員さん、その他の管理運営が異なっております。形の上ではだぶっておりますけれども、やはり一つの独立団体といたしますと七団体ということになります。

○一三番（林 豊君） 農産課長さんに質問が集中するようですが、

七ページの一九節負担金のところでございます。先ほど渡辺議員からの質問もございましたけれども、農業近代化整備事業ですかこの千四百萬四千円でございます。これを見ますとトラクターが十台の大型トラクターが一台というようなお話でございます。実際にこれを利用する組合と申しますか、農家と申しますか、それは私の地区にあるわけですけれども、将来この種の補助金が五十二年も五十二年もずっとつのかどうかということが一つ。

それから、この第二次機構改善を進めるときの部落の責任者がきめられたわけですけれども、どういう観点のもとに責任者の選任をなさったか。

というのは、第一次機構改善の整備事業をするために部落に責任者をきめて、そしてやっていただいたわけですけれども、第二次機構改善というのを途中からすることになって、そして新たに役員を選出したということがあって、第二次の役員さんと第一次

の役員さんとの連絡というものはあまり緊密にとられてないというようなことがあって、そしてトラクターの十台ということも、あるいは私は不足ではないかと考えますが、その間にほ場が大型になりましたものですから、すぐさいますまでのテラーでは間に合わないということで、力のある人はどんどん買ってしまったというようなことがあって、トラクターは十台で済んだかもしれないけれども、おそらくあのようには整備されたほ場をうまく耕作していくにはこの種の補助金が将来もどんどん出されなければと考えますので、まず役員を選出についてどのような考えのもとにやられたか。もう一つは、またトラクターも足りないでしょうけれども、コンバインであるとか、田植機、あるいはさらにはライスセンターとか、乾燥機というものを入れるために第二次機構改善としてやっていけるかどうかということをお聞きいたします。○農産課長（岩崎一郎君） まず最初の第一点の御質問でございますけれども、この御質問に対しまして一応計画の内容をお答えいしたほうが適切じゃないかと思われまして、その方をちょっとお話ししたいと思っております。

この第二次機構の経営近代化整備事業、こういうワクの中で本年度初年度として実施するものでございます。やはり五十年度を第一年度としまして五十三年度をもって終るという四カ年事業でございます。すなわち機械の購入は五十年度、第一年度として大体耕うん関係は終ります。来年度五十一年度は予定されておりましてコンバイン四台、バキュームというものがあつたわけでございます。五十二年度にライスセンター、これは百町歩程度の生産されたものを約三十日間の稼働期間において処理する、こういった



施設が骨子となっております。大体この事業の目玉になるわけでございます。大きな事業と申しますと、本年度の機械の購入、五十二年度のライスセンター、こういうものが大きな目玉事業でございます。

こういうことでございますので、明年度はコンバイン、それとバキューム、こういった予定になっておりますが、ただコンバインにつきましてはいまのところまだ流動的でございます。確定いたしましたものがこの本年度の機械の購入、それとライスセンター、これが十一月二十九日の館山市農協の理事会で決定いたしました、一応五十二年度で実施するということが確定をしております。一億二千万程度の大規模な事業でございますのでやはり全体的な館山市農民の全体的な事業として農協事業で実施することとでございます。このようなものを合わせまして今回二次構の近代化整備事業総額一億四千八百七十七万七千円、このような数字になる予定でございます。年次ごとの計画の中でございますので、先ほど申し上げましたように本年度の機械購入、明年度も機械購入を伴いますけれども、中には流動的なものもございます。三年度におきましてライスセンター、安布里にできる予定でございます。このような事情になろうかと思っております。第四年度になりますと補助金から関係なく融資単独事業、こういうことになるわけでございます。

第二点目の役員の選任と申しますか、そのような指導に関することと思いますが、役員さんの選任につきましては部落内のことでございますし、私どもも急拠この計画がもたれ、一年程度の調査期間において実施年度に入るといふ予定を立てておいたわけで

ございますが、やはり国の都合によりまして直ちに実施年度に入っていたくということでありましたので、そんな関係で役員の選定も御提案申し上げる期間もわずかで発足してしまつたということ、遺憾にたえないところでございます。

大体二次構の事業は、館山市の場合特に違っておりますのは、ほ場整備事業はあくまでも県営事業で、そのあとを受けて部落共同施行の二次構整備事業というものが追っかけてきたという形になるわけでございます。これは隣村の三芳村のような場合、二次構とセットになって同じワクの中で施行できるということであるならば、そのような役員の選任につきまして混乱するような事情はなかったと思います。この点私どもも初めてでございます。いろいろな時期的な問題もあってじっくり御相談申し上げる時間なかったといふことをおわび申し上げます。

〇一三番（林 豊君） 大体ほかについては了承いたしました。

しかしながら役員の選出でございますけれども、部落へ帰っていろいろ話を聞きますというところ、いま課長さんのおっしゃるとおりパイロット事業として第一次、第二次がセットでくる場合はそういうふうな難点はなかったと思うんですが、あとから二次が追っかけてきたという形で、役員が一次の人と二次の人が違うというふうなことで、お互いにやはり意思の疎通がとれないというふうなことがあって、どうもトラクターの注文もなかなか思うようにならなかったということ、かなり組織も遅れているというふうに考えられますので、将来まだ西部のほうのこともございますので、なるべくこういうようなものは一次機構改善事業をしたときに全部セットにしていたらいい、遺漏のないようにやっていた



だくことが望ましいと思ひますので、そういうふうにとつよろしくお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に質問者も相当あるように思ひますので、午前の会議はこれにて休憩したいと思ひますが。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開といたします。

午前十一時四十五分 休 憩

午後 一時 五分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十九名、休憩前に引き続き会議を開きます。

御質疑を願ひます。

○一八番（渡辺軍治郎君） さっきの青年館の問題でちょっと落としたんで質問したいんですが。

青年館の建設について、大体従来からみると県や市の負担する金額よりも地元の負担のほうが多いわけなんです。しかし管理上では市長が管理者になっているし、使用料は無料ということになっていて、維持費の出ようがないんですが、電灯料とかガス代、そういうものは使用すればかかるわけなんです。そういうものを負担するのに町内会とかそういうようなところから負担している。ある町内会では青年館の研修費、そういうふうなことで使った金も町内会で負担させられているという不満も出ています。当然管理者が市長ですから、管理に対する費用ですか、そういうものも当然市が負担すべきだと思ひます。

さっき船形の公民館が全部地元の寄付でもってやるということ、この維持管理についてはやはり地元で負担すべきだというふうなことで、経費の負担からいってちょっと矛盾するといふよう

なところがあるんですが、維持費は管理者としての市がすべきだと思ひますが、その点もう一回御答弁願ひたいと思ひます。

○福祉事務所長（山口 一君） 青年館の管理につきましてはお話のとおりかも知れませんが、私どもの立場といたしますと、建設に際しましては、以後の管理費については地元で負担するからという約束で建設をしておりますので、一応矛盾は感じていません。

○一四番（石井輝久君） 関連質問を一、二したいと存じます。

ただいまの仲宿青年館につきましてひとつ御見解を承りたいんですが、全額四百万円寄付行為にあおぐ、一般財源に寄付をもつて振りかえるということでございますが、地元の強い要望に基づいてという御説明はよくわかります。また、事実地元には強い要望があるということも承知しておりますが、一応地方財政法の第四條第五項でございます。これとの関連でどんな法的な御解釈をしているか承りたいと存じます。

○助役（畠山 伝君） 地方財政法の四條の関連もございすけれども、これにつきましては地域の方々から強い陳情もございまして、満場一致でこれについての寄付について了承したのだからひとつ特別にお願い申し上げたいというふうな強い要請がございまして、受けることにいたしましたものでございます。

○一四番（石井輝久君） 昨日も一般質問したんですが、だから私がただいま関連質問で申し上げました前段に、地元の強い要望もあってこれを実施するように踏みきったということは私が前段申し上げているんで、いまの御答弁は私の質問に対する答弁になっていないんです。



地方財政法第四条の五との関連で、どのような解釈のもとに全額寄付ということに踏みきったのかということで、地元の強い要望があるということはすでに承知しておるわけでございます。

○助役（畠山 伝君） 自主的に寄付するということ、先ほど申し上げましたように満場一致でこれにつきましてきまつたというようなことでございましたので、これに抵触はしないというふうに解釈いたしております。

○一四番（石井輝久君） 抵触しないという御解釈でしようけれども、第四条の五は地方公共団体は「直接であると間接であるとを問わず、寄付金（これに相当する物品等を含む。）を割り当てて強制的に徴収（これに相当する行為を含む。）するようなことをしてはならない。」こうなっております。私は御答弁は必ず、最後の強制的にやってはいけない、強制的ではないんだという法解釈のもとにお答えが返ってくるような気がしていません。

ところが、そうではなくして、地元が満場一段で、町内会、地域でこれを決定したからそれでいいんだということは、法解釈でなくて事実関係の説明になるわけです。法解釈からいきまうと強制的ではないんですよという御答弁であるべきだと思ふんです。

ところが、これには通達で地方財政法及び同法施行に関する命令の実施についてというのがあるんです。その末尾に「住民に割り当てて強制的に徴収するような寄付金の整理については、前各号のとおりであるが、篤志家の自発的な寄付金はもとより正当な収入であり、いささかもこれを禁止するものではないこと。」と末尾にあるわけなんです。御答弁としてはこれでもいいわけなんです。ただ、今回の場合は、これは満場一致かもしりませんけれども

篤志家の寄付ではないわけです。全戸の寄付をあおいで、その上に篤志家の寄付をさらにつめて、大体ある程度目途がついているらしいですが、それで四百万に達するようにする、こういう計画のもとに進んでいるんだそうですが、それですと全戸の寄付でやはり抵触してくると思うんです。全部が篤志家の寄付であるという御説明ならそれでいいわけなんです。しかしながら全部が篤志家の寄付でなくして一般寄付プラスアルファが篤志寄付、こういうことになるとやはり地方財政法に抵触するという解釈をしているわけなんです。

もう一回御答弁願います。

○助役（畠山 伝君） 全部の方々が任意の寄付であるというふうに私どもは解釈しているわけでございます。

○一四番（石井輝久君） だからはじめからそういつていただければよかったんですが、これは地元の本来に強い要望もあるでしょうし、まあ地元の要望にこたえるという市の行政のあり方からいって、たとえ法解釈上多少抵触しても決して悪いことではないと思います。許される範囲でやりになつていい。（笑声）

ただもう一点、引き続きまして国の土地を市が借りてそれを地元に貸す。それでそれに対する地代というものを地元から徴収して国に収めるというふうに先ほど承ったようですが、福祉の所長さん、そういうような経路をたどって地元から地代を徴収して国におさめるんでしょうか。もう一べん発言の許可を与えていただくということで、御答弁願います。

○福祉事務所長（山口 一君） 先ほど申し上げましたとおり、地代につきましては具体的に話し合いが進んでおりませんので、



私どもとしてはぜひ無料にしたいということを考えておりますけれども、現在のところどのようなかはつきりしたことはわかっていません。もし地代が出た場合には地元で負担して下さいという程度の話し合いでございます。

〇一四番（石井輝久君）　そこに私は若干の問題が残されていると思うんです。やはり地元から地代を徴収して、おそらく国の地代ですからたいした金額ではないと思いますが、半永久的に続いていく寄付行為になっていくという解釈ができるわけです。公共施設ですから建てる現在の時点ではいいですよ。しかし同意した人が死んじゃってせがれは地代の割り当ては困っちゃうということになるかもしれんし、こういった若干の憂いを含めまして実は質問してみたんですが、できることだったら地元に対して幾らでもないですから、地代は何らかの措置を考えてやっても良かったほうがよいのではないかといいことを申し添えまして質問を終わります。

〇一五番（辻田 実君）　六ページの民生費について御質問を申し上げたいと思います。

この項の中において重度障害者福祉手当が増額されておるわけでございます。この点につきましては先ほど来の御答弁等から判断いたしました、二項一目のねたきり老人等介護手当の制度の改正による振りがえ、こういうようなことでございます。したがってこれに関連して御質問をいたしたいわけでございます。

一つはねたきり老人の介護手当について、九月までの支出でその残金について重度障害者に該当するものを一応扶助費のほうに振りかえたということでございますけれども、当初予算から考え

てみまして振りがえの額が一般財源で百四十六万六千円ということとでございますけれども、これで年度内の見通しというんですか、ある程度立っているのか。予算半ばを越しているわけですから、さらにこれは補正していかなければならない状況が出てくるのかどうか。この点についての質問でございます。財源その他によってとりあえずこういう形の流用を提案したのか、そこへんの先行きこれらの補正、その他についての状況は四月以降今日に至るまでの経過からしてこのような形の中で予算上無理がないかどうかということについて第一点お伺いしておきたいわけでございます。

と同時に、一つはつい最近八幡湊に特別養護老人ホームというのが広域市町村圏でできたわけでございまして、これにつきましてはどちらかといいますと広域市町村圏の中でもっていろいろと内容的なもの、そういうものは討議されておりますので、この議会に対しては広域市町村圏に対することの予算の支出ということとでもって、こまかい内容についての検討、論議、そういうものができないで、十分にできておらないので、私どももそういうわけでもって運営ないし内容について十分な理解が得られていないので、それに関連してお伺いしたいわけでございます。

この特別養護老人ホームの中に重度障害者というんですか、どの程度入られておられるのか、そして予算の計上に含まれておりますところの重度障害者福祉手当等、こういうものについて適用される人はどの程度入居されておられるのか、これがわかりましたら教えていただきたい。それとの関係においてこうしたところの予算の更正がなされておるかどうかが。この点を二点目としてお伺い



したいわけでございます。

三番目に、このことと非常に関連をもちまして、この老人ホームは特別老人ホームでございますから、特別ということはほとんどねたきりとか障害でもって介護を要さなければならぬというふうな人たちだろうと、ただ一般に年とったからいくというものではなくて、そういう意味の特別養護老人ホームというものに判断できるわけでございますけれども、この養護施設に入っている人たちの住所というんですか、戸籍というところからいってございますけれども、館山じゃございませんから、安房郡広域圏です。から、千倉町とか三芳とか、そういうところから来ていると思うんですけども、あそこに入った人たちはそういう原籍というんですか、来る前までの出身地の安房郡内の、館山市以外の町村におったところでめんどろをみるのかどうか。

大半が私は生活保護者だとか医療保護手当、そういうものを支出さなければいけない人が圧倒的ではないかと思われまます。全部自費でもってあそこに入れているという人は少ないんじゃないか、そこらへんの関係。自費なのか、そういうあれでやっているのかということ、一般的に障害者ないし特別養護を要する老人ということになりましたと、たいへん経済的には負担がかかっていまして、何らかの形で医療保護、その他がなされていると思うんですが、それらの人たちの居住によってはそれらの手当、医療手当とか養護手当、治療費、老人ですから医療の無料化になっていますから、館山の場合七十歳以上ですか、これの支給対象になる人がどの程度なのか。

あそこに入ることによって、戸籍によって館山市が場合による

と、私が質問する真意はほかの町村の人が入ってくる、入ってくるのは目的からいって入ってもらわなければいけないですけれども、入ってくると同時に館山市から医療費もやるということになってくると、かなりの館山市としては予算ないし考慮を払わなければならぬんじゃないかと思うわけです。となってくるとねたきり老人の介護手当の額というものは相当ふえてくるんじゃないかという気もいたすわけでございます。そうした場合に対処するべきものを含んでの更正が、この中でねたきり老人、重度障害者福祉手当等の中に含まれて更正されておるのか。

そういう問題は、将来いま言った三つの問題が起きてくるのかどうか、そこらのところを明らかにしていただきたい。その上に立ってこの予算が云々という問題も次にまた補正なりその他が出てくると思いますので、その点だけを伺っておきたいわけでございまして、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

○福祉事務所長（山口 一君） 第一点目の福祉手当の予算措置でございますが、今回お願いしましたのは五十年分において負担する分ということで、すなわち十月から制度ができましたので、十月、十一月、十二月の三月分を一月に支給するということになっておりまして、五十年分においては一月支給だけを予算化するというたてまえになっておりますので、その分をお願いしたわけでございます。したがって、本年度さらに補正の必要はなからうというふうに判断しております。

第二点目の館山市の特別養護老人ホームの入所中の福祉手当の受給者でございますが、ちょっと現在手もとに資料がございませんので、のちほど取り寄せまして御説明申し上げたいと思います。



それから三点目の、館山特老への入所者の措置の關係でございますが、これは御承知のとおり、老人福祉法によりまして居住地を管轄する福祉事務所の措置によって入所するということで、したがいまして入所いたしました方々の費用につきましては、措置した福祉事務所が支弁するということになっておりますので、お申し出のような事態にはなっていないかというふうに判断しております。

〇一五番（辻田 実君）　そうすると、いまの答弁でございすると、多少研究、調査の余地があるという面が含まれておりますので、さらに深めることについてはちょっとどうかと思えますけれども……。

原則的には措置した町村において負担するということになるだろうということでございますので、なるというふうに一応みて質問をしたいというふうに思うわけでございますけれども、ということになりますと、たとえばねたきり老人介護手当とか、また特に医療措置の面等において相当な額が出るわけでございまして、そうしたものについて若干町村、市との誤差、食い違いが、そういうようなものも出てくるんではないかというふうに思われますけれども、それらについての介護だとか何かの面は中に入って、ここからこの人は三芳、ここからは千倉というふうにやるわけにはいなくて、全部プールでやるということですから、そこらへんについて聞くところによりますと立派な建物の中にかなり収容度も高くなってきたことだけでも、しかしこれに介護する職員だとか、収容する医師とかでかなり無理が出てきておる。これは将来的にはかなりそういう面で問題が発展せざるを得ないんじゃないか。

特別養護を要するということで集めたわけですから、それが館山の周辺の医者がみえるというようにすることにもなるんでしょうし、三芳とか千倉がみえてくれるわけではございませんから、一拠に背追い込む、そして介護する人たちは結局ほとんど介護を受けているだろうから、館山市はあそこにいるからということで、千倉だとか三芳のほうから、三芳の介護についても介護人等の出張なし介護人手当というところで、向こうがそういうことの計算上うまくできるかという問題もこれから出てくるように思われるんですけれども、そういう点については現段階で発足早々でございしますから、まだそういう問題は実際の、事務的にどう運んでいるかわかりませんが、そういう関係はどうなのか。

そういう関係と今度の予算措置の中では、重度障害者の数は正確に福祉のほうで把握できてない状態ですから、連絡はとれてないと思えますけれども、そういうものは見込まれてない中の、いまままでの市内におきましますところの単純的な数字、予算の流用というところで判断してよろしいわけではございませんか。それについて合わせて……。

今後の問題になりますけれども、予算上から逸脱しますから、その点についての御答弁をいただいて終りたいと思いますので、一応そこらへんについて外郭でもけっこうですから御説明を願いたいと思います。

〇福祉事務所長（山口 一君）　特別養護老人ホームの措置費の件でございしますが、これは一応収容者一人に対して事務費並びに生活費の合計が九万七千八百八十八円ときまっております。それ



を措置した実施機関が支弁するということになっております。

したがって、どこから入所いたしましたとしても入所を措置した実施機関がその額を払うということで、特老に入っておる方は一律それによって保護を受けられるという形になるわけでございます。

ただ、いまお話のように特別の方でございますので、当然医療とかその他がかかる、必要になってくると思いますが、いわゆる日常の、私どもの家庭でいう買い薬程度のものはその措置費の中に含まれているという解釈でございます。なお、それ以上の医療費のかかる場合には、措置いたしました実施機関が医療費を支弁するというたてまえになっております。

なお、特別養護老人ホームの場合に、普通の養護老人ホームとは違いまして、福祉施設の最低基準というもので職員の方々の定数がきまつております。そのような方々でございますので、収容者五人について一人の養母さんということで特別の措置が講じられていられるようでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。― 御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を討論を省略して直ちに採決に入りたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

### 採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

### 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第七十号昭和五十年度館山市水道事業特別会計補正予算を議題といたします。

議案第七十号 昭和五十年年度館山市水道事業特別会計補正予算（第三号）

### 質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願ひます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 一つお伺いしますが、一六ページの最後に補償費として二百五十万が計上されていますが、これは個人の所有地の賠償ということで説明がありましたけれども、これは賠償関係というのは土地にしろ立木にしろ、最初ののくらの額で買収できるかということで一応話し合いの上できめるのが普通



だと思つてますが、この支払いは立木の補償になつていますが、あとで追加されたのか、それともいままでの未払いの払いなのかそのへんはどうなのかをお聞きしたいと思ひます。

○水道課長（大嶋重義君） 作名ダムの用地とそれから立木の関係でございますが、その用地買収にあたりましては地元と相当長い期間折衝いたしましたのでございますが、用地につきましては特に山でございますが、これにつきましては松、杉、ヒノ木、こういったものを除いて、雑木以下のものは土地と含めて反八十万円というところで用地交渉は成立いたしました。

それから、いま申し上げましたこういった金目になる立木等につきましては、別途に立木として買い取り補償でやつてもらふというようなことでございましたので、当初四十八年度に用地を取得いたしました際にはこの立木のは除かれて、補助事業でございまして、非常にあそこは土地も広うございまして、いろいろ複雑な点もございまして、第一段階に用地を買収し、次に立木の買い取りを行なうということで、今年度に立木の補償を計上いたしましたわけでございます。

今回二百五十万追加をお願いしたわけでございますが、大体この立木関係の該当者は約四十人ございます。大体作名部落が主体でございますけれども、それ以外に隣りの南条とか大戸等の、ほかにもございしますが、部落外所有者がございします。こういうようなほうの分を含めて調査を進めてまいりまして、この程度の不足が見込まれましたので、今回これをお願いいたしましたして、本年度にこれを片づけてしまいたい、このように考えた次第でございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） その件について了解いたしました。

説明では補助金の申請がかなりもらえたので、工期が大体来年の八月までにはできるという説明がたしかあったと思つてますが、八月までというのは水不足はこれによつて解消できるのかどうか。八月までというのと、八月までにできれば夏の水不足もある程度解消できると思つてますが、八月後になると夏の水不足は解決されないということ、そのへんはどういうふうになるかひとつお聞きしたいと思ひます。

○水道課長（大嶋重義君） 説明の際に申し上げましたのは、ダムの本工事につきましてこれが当初の予定よりもこうした補助の増額等によりまして早められて、来年の夏までにはまず間違ひなくできる見込みであるというふうに申し上げたわけでございます。

それができたからすぐ水は出るのかということになりますけれども、前にも御説明申し上げましたようにあした膨大な拡張事業でございまして、ダムをつくつてそれから水をきれいにする浄水施設がかかります。と同時に、あとからさらに太い本管で約二十四キロになります。二万四千メートルあまりの本管でございしますが、こうした布設工事もあります。こうしたものがすっかりでき上がつて計画どおりの給水ということになるわけでございます。従いまして来年の夏までには私どもいかに努力いたしましても、本管については無理でございします。まずダムを急ぎます。このダムによりまして五十一年度事業で予定いたしましたものは相当工期的にも費用的にもプラスになつてまいっております。なお、先へとの見通しでございすけれども、来年度にまいりまして約ダムのほうは残り分ということで二億三千万ぐらいの事



業量になると思います。パーセンテージにいたしましてこの前申し上げましたように年度末には約八〇%のでき具合になります。こういったことから来年度はダムの残り工事分と浄水施設をやると考えております。

ただ、防衛施設庁のほうで、この前も市長と何回となくまいりまして強い要望をいたしたわけでございますが、国の予算の関係で非常に防衛庁も苦しい立場に追い込まれているということで、館山市の実情はよくわかつている、少しでも多く回して、一日も早く出したいということも同感でございました。

それで、実は全体計画を立てた段階で、防衛施設庁のほうは五十年当初におきまして十八億円あまりでございますが、これを五十年度に二億九千五百万、五十一年度に五億二千百万、五十二年以降として七億一千百万円という、こういうふうな数字を示されていたわけでございます。私どももこれじゃとても五十二年、四年になってもできないんじゃないかというようなことから、補助の付け具合も少なかったわけでございますので、五十一年度市としても議会の議決を経てこれ以上引けないんだ、六万市民が困っているんでということをお願いしたわけでございますが、これにつきましては五十二年度末までには必ず完成してもらわなければ困る、一年かかってこれまでにけひということをお願いしたわけでございます。

ですから私どもも、いま来年度予算が内示されいろいろ折衝もございませうけれども、来年の夏はできませうけれども、五十二年の夏ぐらいまでにはせめて本管を航空隊の付近ぐらいまで重点的にもっていくように何とかお願いしたいと、このように考えてお

ります。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 私がお聞きしたのは来年度夏まででできるかできないかということで、できないと夏の水不足が解決されないということがありますからお聞きしたんですが……。

水が出るようになるのは五十二年度になる、というようにことになりまして、来年の夏もまた水不足に悩まされると、先般の補正予算で調査費百万円計上しましたが、地下水やそういう水源を調査するということが、当然来年の夏までには迷惑をかけないようになると市長さんは答えているわけです。そういう方向に向かって仕事が進んでいるのかどうか。

これは十二月ですから、来年の夏というところ六カ月しかないわけですから、そういうことでもしダムの完成、水が出るようになるまでに五十年度になるとすると、これも夏過ぎになると二カ年間、このぐらい水不足で悩まされるということがありますからお聞きしたんで、それに基づいて調査費を組んで水源の確保を計画的にやっていると聞いていますが、その進捗状況をひとつお聞かせ願いたいと思います。

〇水道課長（大嶋重義君） ダムができるまでの水の応急対策でございますが、これにつきましては百万円の調査費を計上させていただきまして、目下この調査を行っております。まだ完全に済んでおりませうけれども、大体の基本的な考えをいたしましてのもの、やはり地下水を活用していくという考え方でございます。いま考えていることは地下水でも二つの方法でこれを活用していきたいということでございます。

一つは深井戸の活用、深井戸と申しますのはいま西岬地区だと



か西部等で行なっておりますが、七、八十メートルから百メートルの深さの井戸でございます。そうした深井戸の活用と、地区によつては深くないけれども浅い水層地帯に取水できる個所も調査の結果わかりましたので、浅井戸での取水をしてその地点で直接本管にポンプによつて圧送していくという考え方でございますが、そういった二つの方法で応急対策をいま考えております。もうしばらくたちますとこれについて具体的に、私どももはっきりといたしますので、また御報告申し上げたいと思ひます。

そうした対策によりまして、この夏対策をなんとか、皆さん方に御迷惑をかけておりますので、少しでも解消していきたいというふうに考えておりますので、よろしく願ひたいと思ひます。

〇一八番（渡辺軍治郎君） ただいまの説明で夏までの水不足をなくすために浅井戸、深井戸、そういう計画があるようですから、これはなんとしてもダムができるまで努力してやってもらいたいと思ひます。

〇二九番（望月照正君） 一三、一五ページの両方に関連しますが、課長さん簡潔に答弁のほうお願いしておきます。

一時借入金と調達金融機関とその機関の借り入れ金の条件、いわゆる年利ですね、これをまずお知らせ願ひたい。

〇水道課長（大嶋重義君） 私どものただいま一時借り入れをしてあります金融機関は、千葉銀行と信用金庫と郵政省の簡保、この三つでございますが、この利率につきましては千葉銀行が八・二五%、ただしこれには前のものは一部九・二五%のものが二件ございます。それから信用金庫のものが九・六%、それから簡保の

ものが現在七・五%、一部八・八%のものがございます。以上でございます。

〇二九番（望月照正君） 今回の補正におきまして借り入れ金返済が一千万円払わなくて済むような交渉になったわけですね、そこで一千万円を借入金返済をなくすことによつてたぶん一時借り入れ金の金利負担がふえてきたと思ひますが、一千万円の返済金をしなくてここに借り入れ金の差額八千万ほどになるわけですが、そうしますと一五ページの一時借り入れ金の利息が既決額が千七十五万円になっているわけですが、今回の補正によりまして千九百九十七万八千円というばく大な補正が出たんですが、これは当初の四月のときと現在の金利負担がまさか倍もかわってくることはないと思ひますが、この説明をひとつしていただきたいと思ひます。

〇水道課長（大嶋重義君） この関係でございますが、実は私も主にこれは水道の拡張事業と水道施設の買収事業、この二つが大きな五十年度の仕事になっておるわけでございます。この資金につきましては大部分が補助金とそれから起債に仰いでいるわけでございますが、一つは四月に買収事業についての支払いの直ちに始まったわけでございます。これは当初一億円の起債ということ、で財源は計上いたしましたわけでございます。これにつきましても起債の内示がございましてその時点で前借りができるわけでございますが、水道事業の財政が館山市の場合は非常に悪いということでございまして、まず赤字解消の対策を立ててこなければ起債を貸すことはできないというふうな非常にきつい扱いを受けてまして、こういうふうなことから一つは起債の前借り等も非常に遅れたわ



けでございます。こうしたことが一つは大きな、利息が予算に対して多くなったという関係でございます。

それからもう一つは、五月に実は借入金金の限度が一億五千万であつたものを一億円ふやしまして二億五千万にいたしましたわけでございますが、本当はこの際に当然借入金が大きくふえますので、これの一時借入金金の利子の補正をすべきだったわけでございますけれども、その際に限度額だけに補正をいたしまして利息の補正をいたさなかつたというのが、この二つが主な内容でございます。

〇二九番（望月照正君） 大嶋課長さん私の質問にだけ答えてくれればいいんです。余分なことは要りません。

いまも話しましたとおり、起債の前借り関係ということは金利負担には全く関係ないと思ふんです。

私が先ほどから申し上げますことは、まず第一に二億四千五百万円の借り入れ金のとときに、お金はもらったわけでなくて借りるんだから、そのときの金利計算をすることを見過したんだと、だから今回やるんですというならわかるんです。少なくともこういう会計方式をやっているときに借り入れ金を立てて利息を立てないということはまことにおそまつだと思ひます。ですからそんなにおそまつでないと思つたから質問したんです。

これは当初一千七十五万で今度補正で千百万、しかも借り入れ金の返済が一千万しなくて済んだということ、借り入れ金の一千万済ましたということは、金利負担のほうにこの一千万を向けたという考え方、そうじゃなかつたでしょう。それで結局結果をみますと八千万円の借り入れ金残額になるわけでしよう、八千万の借り入れ残額になるんならば、さっき千葉銀行と信用金庫と

郵政の関係から、どっから幾ら借りたということは先ほど答えてくれなかつたんですけれども、金利負担の一番安いところからも借り入れするとすればこんな大きな補正は全然する必要はないと思ひます。先ほどから言っているとおり起債の前借りだとか何とか、そういうふうなことは関係なく、起債とか何とか言つた一時借入金金が借り入れを発生した、即借り入れ金利の発生は当然です。これを出されてないからこういうふうなへんてこりんな補正予算が出るわけです。ですからこれをもう一べん、金利負担の千百九十七万八千円の、どこにどういうふうに払うのか教えていたいただきたい。

〇水道課長（大嶋重義君） いま水道会計で一時借入していますのは、合計で二億四千五百万円になります。

内訳から申し上げますと、千葉銀行館山支店に一億七千五百万館山信用金庫に二千万、郵政省の簡保資金から五千万という内訳でございます。

そこで、私どもの今回出しました追加の内容の、計算の基礎でございますけれども、これは三億六千万に八・二五%をかけたもので、その五十年度分は百二十二日分、四カ月でございますが、これが九百九十二万七千円でございます。それからいま一つ、一億円に対してやはり同じ八・二五%、その九十一日分で三カ月でございますが、二百五万一千円、合わせて千百九十七万八千円とこのような内訳でございます。

〇二九番（望月照正君） 大嶋課長さん確かに計算上そうなるわけですが、説明の中で一時借り入れ金の返済額というものは、一億六千五百万は返済なさるわけでしよう。一千万円減らして一



億六千五百万は返済なさるんだということですから、そうしますと、先ほど何回も言ってますとおり、正味八千万ということですが、八千万を単純計算いたしますと、一割金利を払っても八百万とすぐわかる。ここに一時借入金金の借入利息が合計で二千二百万の金利を払っている。これは皆さ方方もたぶん疑問を持ったことと思いますが、正味八千万の借り入れ金を二千二百万の金利負担をどうして払うんだらうということですが、

それから先ほど言いましたとおり、二億四千五百万を一切返済しなくても、借り入れをしましてもそっくりでも二千二百万円とれくらの金利負担で十分まかなえる、なんでこんな数字が出たのか疑問なんです、もう一べんお聞かせ願いたい。

○水道課長（大嶋重義君）　ただいまの資金計画におきまして、このまゝいっただ場合に年度末には一時借入金差し引きしまして八千万残るといふ計算になるわけですが、正味八千万円で利息をはじくといふわけにはまいらないわけでございます。ですから年度内におきましていろいろと増幅いたしますので、この場合に私ども

ものほうは二億五千万の限度額でございますけれども、場合によりますと先ほどの一時借り入れ等の場合利息等も出てまいりまして、これを合わせますと最大限にはそれを越え得るものもあり得るということで、利息等の関係が大きくなったわけでございます。

○二九番（望月照正君）　課長さん、私はいま言つたように、差し引き勘定の八千万に対する金利計算だということは、たぶん課長さんそういうふうの説明してくれると思つたんです。ですからこれはそういう説明を、八千万というのはこういうふうになると一般的にみますと差し引き八千万出したと、もっと親切にこれは

こういうもんですと言つておくことが必要だと思つてます。

それからもう一つは、一時借り入れ金の二億四千五百万を一年間そっくり借りて八・二五、幾らになりますか、そっくり借りてもこんな額にならぬと思つてます。一割で借りたつて二千四百五十万で済むわけですよ、ですからこういうことをもう一べん皆さん方にもっとわかりやすく話をするのが親切だと思つてすよ、それでしよう。あくまでも補正予算で、いまになって千百何万が出したもんですからみんなびっくりしてゐる。一千万減らさないだけで一千何百万かの金利負担が出てきたということは、一千万の金利を払うために借りたものを一千万払いませんよといふようなもんですから、そういうことになりますから、ひよいと見た目はわかりませんが、借りたものを返さないでその分で金利を払うといふようなもんですから、もう少し検討して皆さんにわかりやすいように計上したほうがいいと思つてます。

○議長（吉田勇治郎君）　他に御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君）　おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君）　御異議なしと認めます。

#### 採決



○議長（吉田勇治郎君）採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君）御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

閉

会 午後二時二分閉会

○議長（吉田勇治郎君）本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よってこれにて第四回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、発言の取り消し・訂正

一、議案第六十七号乃至議案第七十号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会議員

館山市議会議員

吉田勇治郎  
松下 山巳  
南井 敏博



